

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11056	3	前期	必修	1	30
授業科目名 (英文)	老年看護援助論Ⅱ（臨床看護援助論） (Health Promotion of Gerontological NursingⅡ)				
担当教員名	○阿部桃子／山之井麻衣				
授業の概要及び到達目標					
<p>概要：</p> <p>本科目では、高齢者に多い認知症を持ちながら生きている人と家族への看護を通して、高齢者ケアの基本的な考え方や看護方法について学ぶ。</p> <p>授業の前半では、認知症を持ちながら生きている人と家族への看護支援について取り上げる。後半では、特別養護老人ホームに入所しているアルツハイマー型認知症を持つ高齢者と家族の事例について看護過程演習を行い、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱでの学びを統合するとともに、高齢者ケアの基本的な考え方や看護方法について深く理解することをめざす。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 認知症という病や障害の特性や老年期の特徴を理解し、認知症を持ちながら人生の最終ステージを生きている高齢者とその家族への看護支援方法について説明できる。</li> <li>② 事例検討を通して、アセスメントから看護の必要性の判断までについて説明できる。</li> <li>③ ①、②を通して、高齢者ケアの基本的な考え方や看護方法の特質について説明できる。</li> </ol>					
準備学習等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は、1回の授業に対し、90分の自己学習（予習・復習）が必要となる。以下に示す事前課題の学習といった予習と、授業資料、演習レポート、採点済みの復習テストを使った復習を必ず行う。</li> <li>・第1回授業で提出する事前課題（老年看護援助論Ⅰ 第15回授業で提示）は、添削後、返却する。第3・4回授業を理解するうえでの基本的知識が含まれているので、必ず復習する。また、第3・4回授業には事前課題を持参する。</li> <li>・第1回授業で、第2回以降の授業資料等を提示するので、予習をして授業に臨む。</li> <li>・第11～14回授業（看護過程演習）では、老年看護援助論Ⅰでの学びを活用するため、老年看護援助論Ⅰでの授業資料を十分復習をして授業に臨む。</li> </ul>					
成績評価の方法	復習テスト（10%）、中間試験及び期末試験の成績（70%）、看護過程演習レポート（20%）で評価する。				
テキスト	『老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは』改訂第2版（正木治恵、真田弘美編：南江堂） 『老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する』改訂第2版（真田弘美、正木治恵編：南江堂）				

参考図書	<p>「新老年学」(折茂肇編:東京大学出版会) ※</p> <p>「これからの老年学」(井口昭久編:名古屋大学出版会) ※</p> <p>「痴呆症のすべて」(平井俊作編:永井書店)</p> <p>「第二の認知症」(小阪憲司著:紀伊國屋書店) ※</p> <p>「痴呆老人からみた世界」(小澤勲著:岩崎学術出版社) ※</p> <p>「私は誰になっていくの?」(クリスティ・ボーデン著、桧垣洋子訳:クリエイツかもめ) ※</p> <p>「私は私になっていく」(クリスティ・ボーデン著、桧垣洋子訳:クリエイツかもめ) ※</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は「専門職の教育」のうち、「専門展開」に該当する科目である。卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連は、履修案内にある看護学科の履修系統図をあらかじめ確認しておく。</li> <li>・本科目の単位取得は、老年・在宅看護学実習の履修前提条件である。</li> <li>・本科目は、老年看護援助論Ⅰで学んだことを基本に障害を持つ高齢者への看護へと学びを発展させる科目である。本科目の履修にあたっては、老年看護援助論Ⅰの授業資料、演習レポート等を十分復習して授業に臨む。</li> <li>・本科目は、1年次の看護学概論(老年看護学概論)、2年次の生涯発達ケア論(老年期の発達Ⅰ・Ⅱ)、3年次の終生期看護援助論(老年期のエンドオブライフケア)と関連させて学ぶことで理解が深まる。前述科目の授業資料や課題(事前課題やレポート等)を適宜読み返しながら、授業に臨む。</li> <li>・本科目の演習レポート、復習テストは、添削後、返却する。よく復習した上で、期末試験に臨む。</li> <li>・各教員のオフィスアワーは、履修案内にある看護学科「オフィスアワー」の頁を参照ください。</li> </ul>
<b>授 業 計 画</b>	
第 1 回	<p>老年看護援助論Ⅱのガイダンス、「認知症ケアー早期診断　そして人生は続くー太田正博さんの10年」 【講義】(阿部/山之井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護援助論Ⅱのガイダンスと事前課題を使った個人ワークを行う。</li> <li>・「認知症ケアー早期診断　そして人生は続くー太田正博さんの10年」視聴を視聴し、レポートを作成、次回の授業開始時に提出する。</li> </ul>
第 2 回	<p>「認知症の人から学ぶークリスティーン・ブライデン講演より」視聴 【講義】(阿部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「認知症の人から学ぶークリスティーン・ブライデン講演より」を視聴し、レポートを作成、次回の授業開始時に提出する。</li> </ul>
第 3 回	<p>認知症の病態・診断・疫学的背景、施策、BPSD、治療法について① 【講義】(阿部/山之井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の病態・診断・疫学的背景、BPSD、治療法について、認知症全般、脳血管型認知症、アルツハイマー型認知症を中心に解説する。</li> </ul>
第 4 回	<p>認知症の病態・診断・疫学的背景、BPSD、治療法について② 【講義】(阿部/山之井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の病態・診断・疫学的背景、BPSD、治療法について認知症の病態・診断・疫学的背景、BPSD、治療法について、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症を中心に解説する。</li> </ul>

## 第5回 認知症を持つ高齢者の体験世界からみた生活上の困難と看護について

【講義】(阿部/山之井)

- ・認知症を持つ高齢者の体験世界からみた生活上の困難と看護について解説する。

## 第6回 認知症を持つ高齢者へのケアの方向性と看護に活用できる諸理論について①

【講義】(阿部/山之井)

- ・授業開始時に、復習テスト(第1回授業事前課題、第3~5回授業分)を行う。
- ・認知症を持つ高齢者へのケアの方向性と看護に活用できる諸理論(パーソンセンダートケア)について解説する。

## 第7回 認知症を持つ高齢者へのケアの方向性と看護に活用できる諸理論について②

【講義】(阿部/山之井)

- ・認知症を持つ高齢者への看護に活用できる諸理論について解説する。

## 第8回 「認知症の人との超コミュニケーション法 バリデーション」視聴

【講義】(阿部)

- ・「認知症の人との超コミュニケーション法 バリデーション」を視聴し、演習レポートに記載し、次回の授業開始時に提出する。

## 第9回 認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式について

- ・認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式について解説する。
- ・第11~12、14~15回授業に実施する看護過程演習のガイダンス

【講義】(阿部/山之井)

## 第10回 中間試験、高齢者ケアの倫理的課題

【講義】(山之井/阿部)

- ・授業前半に、中間試験(第2~9回授業分)を実施する。
- ・授業後半では、高齢者ケアにおける倫理的課題に関する演習を行う。次回の授業で演習レポートを提出する。

## 第11~12、13~14回 看護過程演習【講義・演習】(山之井/阿部)

- ・さまざまな健康課題を有する高齢者と家族の事例を取り上げ、全体像の把握と看護の必要性の判断までを行う。

## 第15回 高齢者と家族を対象とした看護活動の実際

【講義】(招聘講師/阿部/山之井)

- ・介護老人福祉施設、看護小規模多機能居宅介護で活動する看護管理者を講師として招聘し、看護活動の実際について教授してもらい、施設で生活する高齢者とその家族への看護のあり方について考察する。